

S30b            **カタログアーカイブによって得られた近赤外線で変光を示す AGN の性質**

高妻 真次郎 (中京大) 山岡 均 (九大理)

活動銀河中心核 (AGN) にみられる変光は、ほとんどの場合、はっきりとした周期性はなく変光振幅も一定していない。タイムスケールも、数日程度の短いものから数ヶ月以上の長いものまでさまざまである。変光のメカニズムについては、変光の特徴に応じていくつかのモデルが提案されているものの、まだ不明瞭な点も多い。このような AGN の変光メカニズムをはじめ電磁波の放射領域の様子などを探るためには、可視光だけでなくさまざまな波長帯での変光の特徴を捉えることが肝要となる。

我々は、カタログアーカイブを利用することによって近赤外線波長で変光を示す AGN を抜きだし、その性質を調べた。まず、AGN の近赤外線での対応天体を探しだすために、2つの AGN カタログを 2MASS カタログと cross-identify し、既知 AGN の 2MASS 対応天体を見つけだした。得られた対応天体を、さらに2つの近赤外線カタログ (DENIS、UKIDSS) とそれぞれ cross-identify して、異なる2つの観測時刻における各 AGN の近赤外線での等級値を得た。最終的に近赤外線での変光 AGN として選びだした天体は、カタログ間の測光値の系統誤差などを考慮したうえで、得られた近赤外線での等級差が統計的に有意な変動を示したものである。それら変光 AGN の変光の性質を調べるために、変光量に対する、色や絶対等級、赤方偏移、静止系での観測時刻差などの相関を調べると、一部の間に弱い相関がみられた。講演では、変光量と前述のような観測量との相関を主軸に、近赤外線での変光の特徴について詳しく報告する。